

令和 3 年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(共同制作支援事業)
成果報告書

事業（公演）名	全国共同制作オペラ 團伊玖磨 歌劇『夕鶴』（新演出）	
代表団体名	東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）	
劇場・音楽堂等の 名 称	東京芸術劇場、刈谷市総合文化センター、熊本県立劇場	
実演芸術団体等の 名 称	ザ・オペラ・バンド、刈谷市総合文化センター管弦楽団、 公益財団法人九州交響楽団	
内 定 額	31,994	（千円）

1. 事業概要

(1) 事業の概要

趣旨・目的、ニーズ等
・ 團伊玖磨氏の没後 20 年を迎える 2021 年度に、氏の代表する作品かつ日本を代表するオペラ作品である『夕鶴』を新演出で上演する。オペラ初挑戦となる演出家が新たな視点でアプローチする機会とすることで、我が国のオペラ上演史上、繰り返し上演（再演）されてきた当作品を今一度見直し、“新演出”による創造発信を行い、将来ヨーロッパでの上演を目指すことを目的とする。 ・ 当共同制作オペラシリーズの特徴である異ジャンルの演出家を迎え、その作品の本質を新たな視点で追求するという観点で上演を試みる。また、地元で選抜する児童合唱と地元のプロオーケストラが出演することで、各地域における芸術文化機会の創出を図り、未来につながる舞台作り、地域間の文化共有機会の均等化を実現する。 ・ 日本を代表する若手、中堅歌手を積極的に起用し、アーティスト育成も意図することで我が国の音楽文化の底上げの一助となるよう努める。 ・ 運営面では各種バリアフリー化、多言語化（*その時点での感染状況による）に出来る限り取り組み、障害者を含む、不特定多数の国民、外国人が来場しやすい環境整備にチャレンジすることで劇場法に則り、各劇場が地域に開かれたアーツセンターの役割を、公演を通じ果たしていく。 (聴覚障害者向け磁気ループの運用、*外国人向け英語字幕の運用)
実施日時・実施会場（所在地）・実施回数
①2021 年 10 月 30 日(土) 東京芸術劇場コンサートホール 主催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団） *1 回 ②2022 年 1 月 30 日(日) 刈谷市総合文化センター 主催：刈谷市総合文化センター(KCSN 共同事業体) *1 回 ③2022 年 2 月 5 日(土) 熊本県立劇場演劇ホール 主催：熊本県立劇場（公益財団法人熊本県立劇場） *1 回
演目・曲目、幕構成、主な出演者、主なスタッフ、あらすじ等
指揮：辻 博之（東京公演）、鈴木優人（刈谷、熊本公演）、演出：岡田利規 美術：中村友美、衣裳：藤谷香子 照明：高田政義、音響：石丸耕一 副指揮：辻 博之、コレペティトウル兼音楽コーチ：岩淵慶子、ドラマトウルク：横堀応彦 字幕：まくうち、テクニカルコーディネーター：關 秀哉、舞台監督：酒井 健（NIKE ステージワークス） 他 つう：小林沙羅（ソプラノ） 与ひょう：与儀 巧（テノール） 惣ど：三戸大久（バス・バリトン） 運ず：寺田功治（バリトン） 管 弦 楽：ザ・オペラ・バンド（東京公演）、刈谷市総合文化センター管弦楽団（刈谷公演） 九州交響楽団（熊本公演） 児童合唱：世田谷ジュニア合唱団（東京公演）アイリス少年少女合唱団（刈谷公演/今回編成） NHK 熊本児童合唱団（熊本公演） プロデューサー：中村よしき（東京芸術劇場）、大島寛之（刈谷市総合文化センター） 佐藤奈々絵（熊本県立劇場）

事業（公演）の特徴、鑑賞者利用者拡大のための工夫点又は戦略等
・ 特定の団体に偏らず、広く公平に適材適所のブッキングを行い、公演を行うことで、我が国のオペラ文化の向上を図ることができた。 ・ 児童コーラスは、開催地の地元合唱団（刈谷公演では今回の共同制作参加を機会に新しく設立）、管弦楽は地元のプロオーケストラを起用し、協働することができた。 地域文化に根差した活動の活性化、ホールの地域における文化拠点形成、といった観点から将来の劇場の実りにつながることを期待できるものとなった。 ・ 各地域の高校生（東京はアート系専攻大学生、熊本は地元の音楽大学及びデザイン専門学校生）を事業モニターとして参加募集を行った。その評価を事業報告書作成時に反映し、若い客層のニーズを継続して調査し、中長期的な視点にたって、オペラファンの拡大を目指す工夫を継続的に実施。 ・ ドイツの劇場へ定期的に招かれる演出家として異彩を放つ岡田氏ならではの創造的で、新鮮な『夕鶴』は、オペラ以外の客層拡大に繋がった。 ・ 岡田氏の活動拠点が熊本であることから、8月に熊本県立劇場で出演者向けワークショップを実施した。その結果、東京以外での創作が実現し、東京に偏らず、各地から高水準の文化的発信が可能となった。また聴衆向けの関連イベントとして、事前に「アイリス少年少女合唱団クリスマス・コンサート」（刈谷市総合文化センター）および「サイドにカッコいいダンサーを--For creating a dance」（熊本市現代美術館）が開催され、上演への理解を深める機会を創出することができた。 ・ 東京芸術劇場では、当プロジェクトのドラマトゥルク横堀応彦氏を講師に迎え、「シアター・コーディネーター養成講座 《ドラマトゥルギー編》」を開催。 約半年にわたり稽古期間と並行して開催された本講義には、15名の受講者が参加し、日本では馴染みのないドラマトゥルクという仕事の意義を、当プロジェクトを通して広めることができた。
共同制作を行う劇場・音楽堂等、実演芸術団体
刈谷市総合文化センター（指定管理者：KCSN 共同事業体） 公益財団法人熊本県立劇場 ザ・オペラ・バンド 刈谷市総合文化センター管弦楽団 公益財団法人九州交響楽団
共催者・協賛者・後援者・関係機関
【全公演】協力：劇場、音楽堂等連絡協議会 【東京公演】アーツカウンシル東京／東京都 【熊本公演】後援：熊本日新聞社・KKT・FMK・FM791 協賛：肥後銀行

(2) 事業の目標値、実績値

実施会場	実施日程	入場者・参加者数	
		目標値	実績値
東京芸術劇場コンサートホール	2021 年 10 月 30 日 (土)	目標値	1,300
		実績値	1,507
刈谷市総合文化センター アイリス	2022 年 1 月 30 日 (日)	目標値	1,015
		実績値	672 ※1
熊本県立劇場演劇ホール	2022 年 2 月 5 日 (土)	目標値	800 ※2
		実績値	502

※1…「まん延防止等重点措置」発令に伴い、購入済みチケットの払い戻し等が発生したため。

※2…計画時は、目標値は 800 人としていたものの、「まん延防止等重点措置」発令に伴い、収容率を 50% (586 席) に変更して実施。

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
共同制作の意図や役割分担など事業が適切に組み立てられていた（と認められる）か。 ・共同制作に参加するホール間の連携交流や協働を通じ、劇場制作人材交流（当プロジェクトでのインターンシップを含む）の養成を図ることを目的として、3劇場の制作担当・舞台技術担当等が3都市でのツアーにスタッフ（各館1ポスト）として参加することを目標に定めた。当事業を進める中で、各館の制作担当が1名以上、稽古開始前のワークショップからすべて帯同・参加し業務を分担することができた。また新型コロナウイルス感染症蔓延化での実施となり、安心安全な現場運営のための検査体制を構築するうえで密な連携をとることができた。加えて20代、30代の制作スタッフが多く参加しており、中長期的な視点からみて、各地の今後の劇場運営向上に寄与したものと考えられる。 ・ソリストおよび児童合唱を対象としたワークショップを各地で行った。これらの機会は各地の制作スタッフ主導で行い、各館の制作人材育成に繋がった。オペラ制作の過程を知った制作人材が各地で育つことで、将来的なオペラ鑑賞人口拡大の実現に寄与した。 ・3館で協議、共有しつつ制作を進めることを基本とし、具体的な作業分担については、各劇場間で協定書を結び、各館の業務の分担を定めた。 （東京芸術劇場：幹事館〔出演者交渉および連絡調整、スケジュールおよび予算管理〕 刈谷市総合文化センター：旅行手配、熊本県立劇場：広報） この分担により、遠隔地域での公演の際も、当事業に対し各館が主体的にかかわることができた。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。 ・日本を代表するオペラ作品『夕鶴』を新たな視点で解釈することで、作品そのものが、時代を超えた上演に耐えうる高い成熟度を持つ旨が再認識される機会となった。 ・参加地域のプロオーケストラとともに地域の少年少女合唱団を起用することで、地域活性化と地域の音楽文化普及啓発（子供コーラスとして参加した者が将来にわたる芸術体験として）に繋がった。 ・日本を代表する若手、中堅歌手を積極的に起用し、アーティスト育成も意図することで我が国の音楽文化の底上げの一助となるよう努めた。ソリストには30代2名、40代2名を起用。加えて助演ダンサーとして30代が2名、カヴァーキャストとして、20代2名が参加した。世界的にも注目される岡田利規氏の作品アプローチの仕方を現場で体感し、吸収したことで、今後の舞台出演における表現力向上が期待される。 ・大規模かつ複雑なプロジェクトに対し主体的に参加することで得た経験をもとに展開される事業は、各地の聴衆の育成に繋がり、中長期的に劇場運営に寄与する人材の育成に繋がった。 ・運営面では各種バリアフリー化、多言語化に出来る限り取り組み、障害者を含む、不特定多数の国民、外国人が来場しやすい環境整備にチャレンジすることで劇場法に則り、各劇場が地域に開かれたアーツセンターの役割を、公演を通じ果たした。 （全公演における聴覚障害者向け磁気ループの運用および在日外国人向け英語字幕の運用） ・広報面で、各地域の地元企業との連携が発生し、経済波及効果があった。 ・約70名のカンパニーメンバーが、公演期間中各地域に滞在することで、宿泊・移動・飲食等への経済効果があった。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

・共同制作を通じ、参加劇場がそれぞれ当作品制作に責任を持ち、広報力強化やチケット販売への努力をし、それぞれの劇場が経験を深めることで(特に初参加の刈谷)、将来的な地域コミュニティ、劇場を中心としたアーツセンター機能の活性化の一助とすることを目標とした。

→地域ごとに責任をもってチケット販促をするなど、劇場としての機能強化につとめることができた。

東京芸術劇場では、当プロジェクトのドラマトルク横堀応彦氏を講師に迎えた「シアター・コーディネーター養成講座《ドラマトルギー編》」を約半年に渡って開催。約半年にわたり稽古期間と並行して開催された本講義には、15名の受講者が参加し、日本では馴染みのないドラマトルクという仕事の意義を、当事業の実例を交えながら広めることができた。

刈谷市総合文化センターは、本共同制作参加を機会に「アイリス少年少女合唱団」を設立。応募が殺到し、60名ほどが採用された。文化庁の冠のもと、全国規模の大きな公演であったことが、プロジェクト全体および公演への期待値を増大させることに繋がったと考えられる。公演には選抜された14名のみの出演となったが、先立つ形で「クリスマス・コンサート」を開催するなど、積極的な活動を展開した。将来的に共同制作へ再び参加する構想が既に刈谷市総合文化センター内でも議論されており、成長した同児童合唱団との再会が期待される。

熊本県立劇場では、当プロジェクトに振付、ダンサーとして参加していた岡本優氏に焦点当て、熊本市現代美術館と「サイドにカッコいいダンサーを――For creating a dance」を開催。上演への理解を深める機会を創出することができた。

・関東、中部、九州という遠隔地域の劇場が協働することにより、経費および業務を分担することができ、かつ各館が主体的にかかわることで、人材の育成やスキル向上に繋がる。
また内容的に独創性の高い創造発信に繋がる(制作を伴う)最高品質のオペラ上演に各館が主体的にかかわることで、地域の文化力を著しく向上させることを目標とした。

→各館の制作担当が1名以上、稽古開始前のワークショップからすべて帯同・参加し業務を分担する各自が責任をもって主体的に制作することで、均一したハイクオリティの上演を実現することができた。

特に新型コロナウイルス感染症蔓延下での事業継続に必要なノウハウの共有は、今後も続くことが予想される、ウィズコロナ時代に向けて、各館の財産となったと考えられる。なお全参加劇場で制作担当のみならず、舞台、広報などのセクション間交流を図ることができた。

また本事業の演出家が演劇関係者からの注目を集める存在だったために、クラシック音楽業界とは異なる土壌のライター、記者、評論家との関係を築くことができた。

これらにより、一時的ではない継続的な地域文化の活性化、市民への還元に寄与することが期待される。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

当初の予定通り、ワークショップおよび立ち稽古を実施し、初演であった東京公演を迎えることができた。
また 2022 年 1 月からの新型コロナウイルス感染症再流行の影響で、飛行機の減便が発生するなど、旅程の変更を強いられたが、旅行手配を担当していた刈谷市総合文化センター制作スタッフの懸命の努力により、滞りなく出演者およびスタッフの全員が予定通り、移動することができた。

また立ち稽古開始前の 2021 年 3 月（於：刈谷）、4 月（於：東京）、8 月（於：熊本）に共同制作会議を行うことで、中長期的な広報戦略をたてることができた。結果、定期的な露出に繋がり、注目度の高い公演となった。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

要望書記載の要望額 36,425 千円に対し、交付決定額は 31,994 千円だったため、4,431 千円を事業費削減に対する大きな努力が必要となった。

支出金額として当初 87,063 千円を見込んでいたものが、旅費の削減および人件費の削減といった努力の結果、決算金額は 81,462 千円、5,600 千円の事業費削減を達成できた。従って計画時の予算内で実行することができた。

刈谷公演の翌週に熊本公演を行うにあたり発生する移動の際、出演者以外は一度東京に帰らず、刈谷から熊本に直行する旅程としたことで、旅費の削減に繋がった。また新型コロナウイルス感染症感染対策の一環として、稽古場立ち会い人数を減らしたことで人件費の削減に繋がった。舞台美術制作に係る鉄および木材が高騰しているなか、劇場所有の資材を使用するなどの努力が行われ、経費を抑えることができたことも追記する。

一方、新型コロナウイルス感染症蔓延下での稽古および公演実施となったため、検査費用およびカヴァーキャスト人件費の増額が発生した。検査は約 250 セットの PCR 検査キットと抗原検査キットを用い、定期的に行った。2020 年の流行初期と比較すると廉価になったものの、検査経費は膨らんだ。また当初カヴァーキャストの確保は、負担の大きいという役のみを考えていたが、感染状況を鑑み協議の上、全 4 役につけることとなった。

感染状況のすべてを事前に予想することは困難であり、計画時には支出が予想されていなかった対策のための経費が発生したが、前述の努力が実り、これらの経費も含めて予算内で実行することができた。

(4) 創造性

自己評価

我が国の実演芸術水準を向上する牽引力となることが期待できる国際的水準の公演であった（と認められる）か。

- ・ 当事業は、ドイツの劇場で定期的に演劇演出を任される岡田利規氏が日本を代表する伝統的オペラ作品に、全く新しい切り口で挑み、将来ヨーロッパでの上演を目指すことのできる作品を創造することを目標とした。ハイクオリティな作品創造に欠かせない長期間の拘束に耐えうるギャランティを保障することで、作品および演出への理解度を深めるためのワークショップの実現（2都市で10日間）を可能とした。これらの実現は、出演者にとって演出意図の理解度が深まることに寄与し、音楽的にも演劇的にもハイクオリティな作品に仕上がった。結果、初演となった東京公演は、岡田利規氏の読売演劇大賞優秀演出家賞受賞および音楽専門雑誌『音楽の友』誌上の企画「ベストコンサート2021」対象公演として、それぞれ初めて選出されるに至った。

本公演は、日本を代表するオペラ作品『夕鶴』に対し、愛好家が抱くイメージと180度異なる演出だったため、集計したアンケート上およびSNS上で賛否両論を巻き起こすほど話題となった。これらは関わる出演者およびスタッフが時間をかけ、丁寧に作品に携わることができる体制を整えたことが要因のひとつと考えられ、文化庁の支援なしでは成し得なかったと断言できる。

- ・ ソリスト4名（小林沙羅氏、与儀巧氏、寺田功治氏、三戸大久氏）は全員が初役であったものの、好演し、高い評価を得ることができた。特に小林沙羅氏は、演出プランによって、従来のつう役とは異なるマインドを必要とされたが、事前に行ったワークショップにおいて、演出家およびスタッフと密なコミュニケーションをとったことで、新しいつう像を提示することができた。
- ・ 当プロジェクトでは2名の指揮者が出演した（辻博之氏〔東京〕、鈴木優人氏〔刈谷・熊本〕）。辻氏は、2015年以来、共同制作オペラシリーズに副指揮者として参加し、オペラの演出経験のない演出家との共同作業におけるサポートを行ってきた。この経験を生かし、当プロジェクトでの円滑なクリエイション、芸術面でのクオリティ向上に大きく寄与した。また東京公演での演奏は、岸純信氏の選ぶ「活躍を期待する指揮者たち」（音楽現代1月号掲載）で高い評価を得た。
- ・ 通常の演出では歌唱部分のみの出演となる児童合唱が、今回の演出プランでは、異なる役割を与えられた。演出の岡田利規氏や振付の岡本優氏、演出助手の生田みゆき氏など、今後我が国を代表しうるアーティストが直接演技指導を行うことで、将来の芸術文化の担い手を育てることに寄与した。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながった（と認められる）か。

当事業の取り組みについて、有識者による批評、来場者の反応の一部を下記に列挙する。これらの反響から、当事業の実施が当該劇場・音楽堂等への国内外での評価の向上に繋がり、各劇場・音楽堂等のミッション達成の一助となった。熊本県立劇場は、熊本単独ではなし得ない大規模な舞台芸術の創造に取り組むことができる貴重な機会として、平成 27 年度から 3 年毎に共同制作オペラに取り組んでいる（2015 年『フィガロの結婚』2018 年『ドン・ジョバンニ』）。また、これまでの実績を踏まえ、令和 4 年 2 月の理事会では、令和 6 年度の共同制作オペラに向けた準備資金を積み立てる規程が制定された。また刈谷市総合文化センターは少年少女合唱団を結成するなど、市政周年事業に相応しい取り組みと評価され、将来的な共同制作事業参加に関し検討されている。

○マスメディアへの露出

「最後のアリアを歌い終わるやいなや、突如、つうがトタン壁を蹴飛ばしてぶち破り、あっけなく彼方へと去ってゆくではないか。その法外な速度といたら！これこそが「オペラ」の身上だろう。すべての演出はこの一瞬のために組み立てられており、つうの憤怒の前にすべての構図はくるりと反転したのだった。」

（以上、読売新聞夕刊 11 月 5 日 沼野雄司）

「ラスト、鶴が飛び去る空はタイトル違い、悲しい夕景色ではなく、晴れた青空。それは誰の心象風景か。

ここに演出のキモがある。面白い。」

（以上、日本経済新聞夕刊 11 月 10 日 山崎浩太郎）

「彼にとって理不尽な別れに、昭和のおじさんたちの目頭が熱くなりかけたときだった。妻は壁を蹴破り、舞台から去っていく。最高じゃないか！」

（以上、朝日新聞夕刊 11 月 11 日 鈴木淳史）

○アンケートの反応

【東京公演】とても良い 66.7% 良い 18.8%

・演出目当てで行きましたが、予想を上回るインパクトを受けて、帰りました。つうが格好良く、ダンサーの演出もはまっていました。子どもの頃生まれて初めて見た演目を 50 年後にこんな形で見るとは。

～下記、学生による事業モニター～

・『鶴の恩返し』ではおしとやかなイメージがあり、与ひょうとわかれることになりかわいそうだとばかり思っていたが、この作品では鶴のイメージが 180 度変わり、女性の強さを感じた。衣装が黒から銀に変わり、舞台照明でキラキラと反射したドレスを纏い、堂々と立っている姿から昔話や歌舞伎の話で描かれるような悲劇のヒロイン像とは真逆の女性としての誇り、勇ましさを感じ、元気をもらった。

・舞台の上の字幕がとてもありがたかったです。英語の字幕もあったので、日本語があまり得意でない海外の方でも楽しめそうな公演だと思いました。

【刈谷公演】大変満足 57.1% 満足・まあ満足 37.7%

・意欲的な新演出の『夕鶴』を愛知でもみられて嬉しく思いました。

・よく知っている物語なのに斬新な演出でとても刺激的でした。

地域の人たちの参加という趣向も興味深かったです。

～下記、学生による事業モニター～

- ・約2年ぶりのイベント参加で、オーケストラの演奏が始まった瞬間に鳥肌がたちました。話が盛り上がりを見せるころでは、時には歌を音楽が上回り、時には音楽は控えめになる。音楽淘汰がせめぎ合いながらも、どちらかが背景になることはなく、同じ圧で伝わってくる音響が素晴らしいと思いました。

【熊本公演】大変満足 60.1% 満足・まあ満足 34.7%

- ・福岡から熊本はわりあい気軽に来れるとわかったので、ワークショップやこのような演目を制作してほしいです。福岡はどうしても商業ベースだから。演出の岡田さん熊本在住とは知らなかったです。これからも熊本から発信し続けてください。

～下記、学生による事業モニター～

- ・元のキャラクターに新たな要素を加えて、別のキャラクターになっているかのように見えたので、もしかしたら本当に原作とは違うストーリーになるんじゃないかと本気で思っていました。それくらい、今回の「夕鶴」の世界に惹き込まれました。

○音楽業界専門誌でのレビュー（抜粋）

「いろいろと謎が多い舞台だけれど、音楽とも古めかしい台詞とも、不思議に違和感がない。」

「そんな演出に、辻博之の指揮する、ザ・オペラ・バンドが現代的な演奏で応える。オケはよく歌い、ニュアンスも豊か。團伊玖磨の見事なオーケストレーションを浮き立たせる。歌手ではつう役の小林沙羅が凜とした佇まいとよく透る声で圧倒的な存在感。強い表現力で舞台を牽引した。」

（以上、モーストリークラシック1月号 石戸谷結子）

「我々は、つうが人間を愛したように、自分と全く異なる者（ここでは鶴の化身）を本当に愛せるのか？多様性の時代にふさわしい問いかけがなされているようにも思った。」

「つうがきらきらの衣裳で2名のダンサーを伴って現れたのには驚かされた。この現代的な表現によって、与ひょうが機屋を覗いたときの驚きの大きさを我々も体験することができた。これは民話的な驚きの更新であり、可視化である。」

（以上、音楽の友1月号 山田治生）

「ジェンダー規範が急速に変化している現在、オペラの物語の価値観は古めかしく固定的に映る。その落差を埋めるのは演出の仕事だが、もっぱら日本国内で制作されてきた「夕鶴」は大胆な読み替えとは無縁だったように思われる。このような演出には当然賛否があるが、海外の劇場での経験が豊富な岡田の意図は、とりわけ女性の観客にはストレートに伝わったようだ。」

「熊本は九州の中でも地域のオペラ団体の活動が活発だが、演劇や映画、ダンスなどで活躍する才能を積極的に起用した全国共同制作オペラは、独特な角度から光を当て、地域にも新鮮な刺激をもたらしているようである。」

（以上、モーストリークラシック5月号 江藤光紀）

—

マスメディア、業界専門誌への掲出数 75 件（東京公演 59 件、刈谷公演 6 件、熊本公演 10 件）を達成し、各地で 85%以上の高い満足感を得たことが来場者アンケートからわかり、高水準な公演だったと考えられる。

今後も計画的なオペラ制作・上演に向け、全国の劇場・音楽堂等と情報共有や協議を進めていく。我が国の実演芸術水準を牽引する高水準な作品を継続的に共同制作することで、全国の劇場スタッフの制作能力のスキルアップの機会を提供し、オペラ人口の拡大に繋げていきたい。また新設の劇場や参加歴のない劇場等との広域なネットワーク構築に向け努力を重ねていきたい。